発行年月日:2019年1月31日
発行責任者:中土幸男

丸の内病院 連携室だより

ご自由に
お持ち帰りください

特集　外　科
大山 繁和 先生を知る

新年の御挨拶

院長　中土幸男

皆様、新年明けましておめでとうございます。日頃より当院および関連諸施設をご利用いただき感謝申し上げます。平成31年（2019年）もどうぞよろしくお願いいたします。

当院では今年早々、病院の西側に隣接して2階建ての西棟を増築いたします。西棟には緩和ケア病棟（10床）と緩和ケア外来が入り、地域の緩和ケアの拠点の一つとなるよう努力いたします。緩和ケアの対象はがん末期の患者さんで身体的苦痛のみならず、精神的、社会的、あるいはスピリチュアルな痛みも和らげ、穏やかな終末期を迎えてもらうことを目指します。中信医療圏では初めてとなる緩和ケア病棟の開設まで約1年となりました。他の病院や在宅からの患者さんを受け入れ、地域の緩和ケアの拠点となるよう準備をしてゆきます。

昨年4月に開設された「病児保育施設わかば」は子育てをしながら仕事に従事している皆様に多数ご利用いただいております。一方、少子化の中、当院の周産期医療は地域の貴重な医療資源となっています。昨年9月、分娩料を引き下げ、病室のアメニティを向上させました。メディカルフィットネス施設では妊婦さんのマタニティヨガと産後の母子へのベビーマッサージを行っています。当院は今後も地域の周産期医療を担うと同時に、妊婦や褥婦へのケア、その後の子育てまでも含めた関わりをもってゆきます。

当院は皆様の“かかりつけ医”としての役割も担っています。在宅からの急性増悪患者さんの受入や、在宅診療、生活習慣病管理などを実践しています。今年も医療と介護、また病院と診療所とのシームレスな連携をより強固にしていくことで地域に貢献してゆきます。今年4月より整形外科の脊椎外科専門医が一人加わり二人体制となります。地域の脊椎疾患の需要に応えるため、今年秋頃に「脊椎外科センター」を立上げ、脊椎外科に習熟した多職種スタッフからなる質の高い診療チームで取り組んでゆきます。

今年が皆様にとって充実した幸せな年となりますよう祈念すると同時に、診療、健康管理、在宅医療・介護を実践する丸の内病院と関連施設をご愛顧いただきますようお願い申し上げます。

外科　Dr.大山繁和（オオヤマ　シゲカズ）

外科疾患はもちろん、緩和治療にも携わり、多様な分野でご活躍の大山先生にお話しを伺いました。

プロフィール

名　前：大山　繁和

専　門：消化器外科
（胃癌・大腸癌・肝胆膵の手術を担当しています）

患者さんへメッセージ

私は、初診患者さんにいろんな質問をします。病気のことは当然お聞きしますが、そのほかに家族構成、お子さん、お孫さん、いままでのお仕事、ご趣味、などなど根掘り葉掘りお聞きします。
これらは、手術に関係ないように見えるかもしれませんが、退院後の生活環境を知る手助けになりますし、回診や退院後外来のお話にも役立ちます。初診の診察はご縁ですので、初めてお会いした時の時間を大切に考えています。

資　格：医学博士、日本外科学会専門医、指導医、日本消化器外科学会専門医、指導医、日本がん治療認定機構がん治療認定医、消化器がん治療認定医、日本消化器外科学会評議員、日本臨床外科学会評議員、日本胃癌学会評議員、胃癌取り扱い規約委員、日本胃癌学会 GIST 学術小委員会委員
胃癌治療ガイドライン検討委員会作成委員会委員
著作（共著）：胃外科の要点と盲点、消化器外科ナビガイド「胃」、がん研スタイル、癌の標準手術胃癌、続・残胃癌など

金沢大学附属病院 ⇨ 国立がんセンター ⇨ 癌研病院（がん研有明病院） ⇨ 金沢医療センター ⇨ 丸の内病院

丸の内病院に赴任して現在２年目。美しい北アルプスを眺めながらの毎日で充実して仕事に励んでおります。

整形外科や産科が立派ですね。リハビリや栄養課が非常に充実しています。リハビリは、単なる運動療法だけでなくマッサージやリラクゼーションもしてくれます。栄養課は非常に細かい患者さんの要望に応えてくれます。こんなにきめ細やかな病院はいままでありませんでした。薬剤部も充実していて、お薬の管理が行き届いています。歯科があることも大変ありがたいです。歯科の宮下先生に口腔ケアで大変お世話になっています。
外科は、私が参加しマンパワーが増えたこともあり、2017 年の手術件数は増えました。<図 1>特に腹腔鏡手術が多くなっています。最近は、緩和治療の勉強もしております。

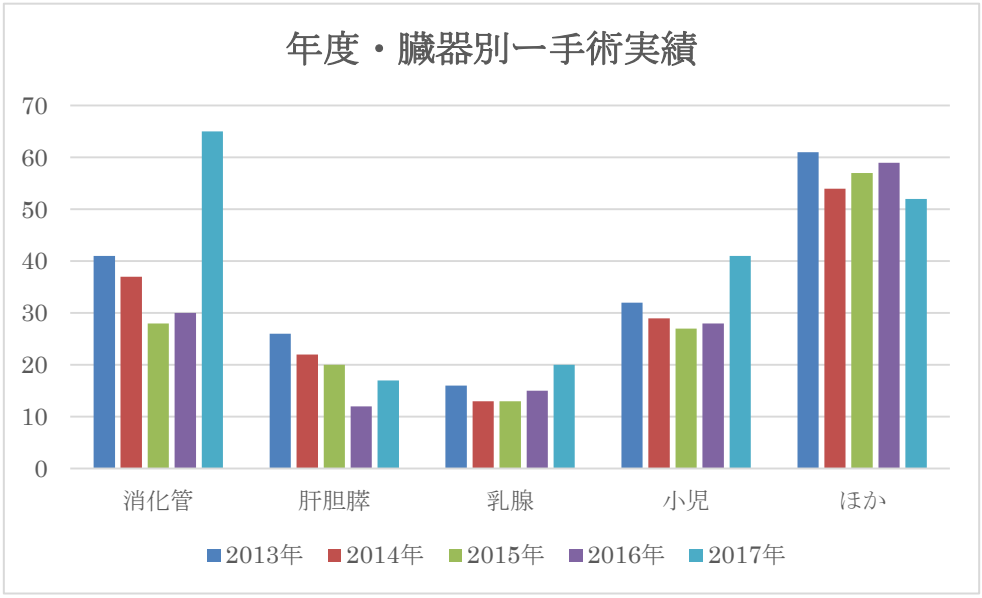

図 1　外科手術実績

ひ　と　こ　と

山にも行っています。目の前にあると却って行かなくなるものですね。金沢時代より回数が減ったように感じます。東京の時は、バスを予約していましたから、天気が悪くても行きました。いまは「山の天気」で調べますので、少し天気が悪いと止めることが多くなってしまいました。しかし、天気が悪いほうが感動的な景色が見られた気がします。病院の談話室から常念山脈を眺め、登りたいなーと思っているこの頃です。
ご指導、どうぞよろしくお願いいたします。

私の履歴書

01. 胃癌との関わりがスタートした「金沢大学附属病院」

外科に入局したときの最初のオーベン（指導医）が米村先生で胃癌の専門医でした。わたしの胃癌とのかかわりはここで決まりました。研究の先生が佐々木琢磨先生でがんセンター研究所から来られており、がんセンターのシニアレジデントにご推薦いただきました。

02. がんのプロフェッショナルを育てる医療教育施設「国立がんセンター」

２年間、胃外科のシニアレジデントとして働きました。文字どおり敷地内の宿舎に寝泊りしていました。隣が、築地市場でしたので、土曜午後の場内市場での食事（お寿司）が楽しみでした。

03. 年間 200 例！！最も手術を行った「癌研病院（がん研有明病院）」

山の手線の大塚と池袋の中間にあり、外科、内科、婦人科、頭頚科、泌尿器科、整形外科、化学療法科がありました。基本、癌のみを対象とする病院で、救急患者さんは来ませんでした。外科医も増え手術件数は、年に 100 例前後となりました。癌研病院のマークは、カニです。カニは、英語でキャンサーといい、癌を言い表しています。これが、大塚通りに面した正面玄関に飾られていました（色は青銅です）。
癌研外科は、在籍した 1994 年は臓器別診療ではなく乳がんの手術も担当しました。その後、消化器、呼吸器、乳腺に別れ、臓器別診療となりました。外科部長の高橋孝先生は、消化器癌全般を治療できる医師を育てることを大切に考えており、胃癌のほか、肝胆膵、結腸の手術も行いました。初代外科部長の梶谷先生の「べからず集」（消化器癌手術アトラス）には、「手術中には無駄口をたたくべからず」とあるのですが、高橋先生や霞先生、吉本先生など梶谷先生のお弟子さんにあたるお偉い先生方は、反面教師なのでしょうか手術中によくおしゃべりをされていました。当時、私は大塚駅付近に住んでおり、毎日歩いて病院に通っていました。
2005 年に病院が豊洲の有明に移転し、名前が「がん研有明病院」になりました。病院は立派になりましたが、山手線とりんかい線を乗り継いで 1 時間以上かかるようになり、5:30 起き、22:00 帰宅の生活になりました。診療は内科・外科が統合され、臓器別のセンターに分かれ、手術も完全な臓器別になりました。例えば、大腸がんで手術を受けた患者さんに胃癌がみつかると胃外科の医師が手術を行い、肝臓の手術が必要となると肝胆膵外科にお任せという診療となりました。癌研時代は最も手術を行いました。多い年では 200 例ぐらい。移転後は外科医も増え手術件数は年に、100 例前後となりました。

この頃から登山を行うようになり、新宿から夜行バスの「さわやか信州号」で良く上高地まで通いました。

04. 大腸癌や肝臓・胆嚢・膵臓など様々な手術に携わった「金沢医療センター」

兼六園の隣にあり、旧前田家家老奥村家屋敷跡に建てられ白壁の塀に囲まれています。＜写真１＞は、兼六園を挟んで反対側、金沢城の石川門、桜の時期です。病院は、小立野台という高台に建てられているので、６階の医局からは日本海も望め、夕日のビューポイントでした。夕方、日没のころになると医局へ戻ってこのような写真を撮ったものです＜写真２＞。外科医は７人いましたが、救急患者さんが多く忙しい毎日でした。登山が趣味なので、時間をみつけては白山、立山、薬師岳などによく行きました。また、車で3-4 時間かけて後ろ立山連峰や穂高にも良く行きました。＜写真３＞は、良く通った立山です。立山駅まで 1 時間ちょっと。そこからケーブルとバスで 1 時間ちょっとでこのような景色が見られました。

<写真 1>

<写真 2>

<写真 3>

Turning Point　～自身が癌を経験して～

がん研有明病院を退職したのは 2011 年東北大震災の夏です。その２年前の 2009 年に癌を患いました。実は、自分で見つけました。咳が続くので CT を撮りましたが特段異常ないと言われました。医局で、自分の CT をじっと見ていたら病気を見つけました。Stage ⅢB と言われました。自分からみても難しい手術と思われたので、自分が最も信頼する元同僚の外科医に手術を頼みました。当時は大学教授になっていました。その外科医に執刀を頼むことを、院長も当該科の部長も快く承諾してくれました。これはありがたかったですね。病棟の看護師長も長い付き合いがあり、安心して入院治療が受けられました。大きな傷でしたが、術後９日目に退院して自宅でリハビリしました。これが、自分の転機となったように思います。

地域医療連携部より

【２０１９年】
本年が皆さまにとりまして健やかで良い一年になることをご祈念申しあげます。
地域医療連携部一同、安心と満足を提供できるよう精進してまいります。
何卒宜しくお願い申しあげます。

地域医療連携部って？？

地域医療連携部は、地域医療連携室と入退院支援室より構成されており、医師・看護師・医療ソーシャルワーカー・事務の多職種で力を合わせ地域医療ニーズの対応に取り組み、近隣の医療機関や開業医の先生方、受診・入院いただく患者さんとの信頼関係を構築、連携の強化に務めております。

医療相談・予約調整（紹介状お持ちの方）等、何かありましたらお電話や受付窓口にてご対応させていただきます。
「連携室だより」につきましても、ご要望等ございましたら受け付けております！！

地域医療連携部	
直通電話	0263-28-3010　FAX：0263-28-3011
受付時間	平日　午前９時～午後６時 土曜日　午前９時～午後１時